

いとう まさこ
伊藤 正子 議員



問 高齢者の生活支援について

答 助け合いながら暮らしていける体制づくりを進めたい

コロナ禍による長引く外出自粛で人との関わりが減り、高齢者の生活に様々なところで影響が出ている。高齢者にとって「健康」「経済力」「孤独・孤立」に関する支援が重要と言われているが。

問 「健康」について。①新型コロナウイルスワクチン接種状況は。②※基本チェックリスト回収率は。③移動スーパーの現状は。

健康福祉課長 ①4月末現在、65歳以上で3回目を終了した方は87%です。今後も町の接種計画に基づき4回目の接種を進めていきます。②回収率は99%です。自身の心や体の衰えを把握できるセルフチェックとして、また、要介護状態になる可能性がある方を把握する手段としてリストを活用しています。③5月の1日平均利用人数は46名で、1人当たりの購入実績は6点、1,400円ほどでした。

※基本チェックリスト・・・日常生活に必要な機能が低下していないかを確認するため、70歳以上を対象に毎年実施される調査。



問 「経済力」について。シルバー人材センターの現状は。

健康福祉課長 173名が会員登録をしています。会報誌やホームページで最新の情報や活動内容をお知らせし、会員数を増やす取組を行っています。

健康福祉課長 高齢者が地域で孤立しないよう、地域で不足している資材やサービスについて協議をしています。今後、各地域における高齢者の居場所づくりの活動を支援していきたいと考えています。

町長 高齢者福祉計画の基本理念に掲げている「住み慣れた土地で地域で支え合う、健康で安心して生活できるまちづくり」を進めていきたい。

問 「孤独・孤立」について。
※地域支え合い協議体はどのように機能していますか。

※地域支え合い協議体・・・多様な事業主体が参画して、地域における高齢者の生活支援、介護予防体制の整備に向け、定期的に情報共有や課題解決に向けた協議等を行う組織。

町の総人口に対する高齢者数と高齢化率

総人口 8,235人 (令和4年4月1日現在)		高齢化率 35.5%
65歳～74歳	1,623人	
75歳以上	1,300人	

